



挺身赴難
伝統の継承

近畿連合支部だより

発行責任
全日本空挺同志会
近畿連合支部事務局



三木支部長

年頭の挨拶
心に空挺マークを
近畿連合支部長 三木 元秀

明けましておめでとう
ございます。会員及び予
備員の皆様には輝かしい
年を迎えられたこととお
慶び申し上げます。平素
は支部活動に格別のご支
援ご協力を賜り誠にあり
がとうございます。この
場をお借りして厚く御礼
を申し上げます。

さて、全日本空挺同志
会は、陸海空三自衛隊唯
一の実動落下傘部隊であ
る第一空挺団を母体に、
特殊作戦群の出身者、3
00期を数える空挺基本
降下課程修了者、御協力
を頂く会員の方をもって
全国に展開する支部から
構成されております。

その中でも、近畿連合
支部（大阪府・兵庫県・
奈良県・和歌山県区域を
管轄）は、全日本空挺同
志会の慰霊行事の中でも
重要な価値を有する高野
山慰霊行事を司る地元支
部として、全国から物故
された空挺隊員の御霊を



C-1輸送機からの降下

お迎えするという大事な
役割を果たす支部です。

近畿連合支部の区域に
おられる空挺隊員現役、
OBの方はその役割の重
要性に顧み、ぜひ空挺同
志会員として活動に参加
して頂きたいと思ってい
ます。

また、御協力頂ける方
の後ろ盾が必要です、広く
御賛同賜りますように御
願い致します。

支部としましては、駐
屯地行事や分会発足の行
事等には各駐屯地に会員
激励に出かけております。
空挺同志会員の現役の皆
様は胸に空挺バッジを必
ず装着し、OBとなつて
は「心に空挺マーク
を！」合言葉に、「空挺
を大事にし、空挺を思う
のは空挺！」の意識を忘
れないようにしていきた
いものです。

本年が皆様にとって輝
かしい年でありますこと
を祈念し年頭の挨拶とさ
せていただきます。



第六〇回高野山慰霊祭開催



『空の碑』墓前での新合祀者御遺族写真

平成27年9月6日（日）、
全日本空挺同志会が主催
する高野山慰霊祭が聖地
高野山奥の院、一の橋
「空の碑」墓前において
小雨降る中厳粛に執り行
われました。本慰霊祭は
今年で60回の節目を迎え
記念すべき行事となり、
参列者は例年を上回る約
3百20名を数えました。

慰霊祭は菩提寺の不動
院から一の橋までの、第
3音楽隊を先頭に慰霊行
進が始まり、「空の碑」
に到着後、伊丹理事長の
開祭の辞から開始されま
した。近畿支部連合会、
高野山委員による献花、
国旗掲揚、黙祷と続いた
後、導師（山階不動院住
職）が入場、読経が響く
中、新合祀の10柱の遺骨
が墓碑前に安置されまし
た。続いて衣笠空挺同志
会会長による祭主祭文、
兒玉空挺団長による追悼
の辞、高野山委員安積氏



祭主祭文を奏上する
衣笠全日本空挺同志会会長



空挺落下傘部隊将兵之墓



『空の碑』建墓の由来について
紹介する三宅高野山委員長

『空の碑』建墓の由来
『空の碑』は挺身第3連
隊の軍医として勤務され
た中村中尉が、戦後「亡
き英霊の慰霊」と「挺身
精神の昂揚」を全国の戦
友と遺族に呼びかけ奔走
され、昭和31年9月23
日に完成し、納骨開眼頭
彰の式典が盛大に行われ
ました。

墓標の「空」の字は、
不動院院長様のご努力に
より古書の中から正確に
弘法大師直筆と認められ
る「空」の一字を見つけ
ていただきました。この
「空」は「空挺部隊」の
最初の文字であり「一切
空」の亡き友の心にこれ
以上通じる言葉はないと
信じ、墓標に「空」の一
字が刻まれることとなり
ました。また、墓石は庭
師の岩田氏が京都鞍馬の
清流の底から見つけた石
であります。

高野山委員長三宅久仁夫
「高野山『空の碑』建墓の
由来について」から抜粋



慰霊祭に参加した
高野山委員等の支部会員



墓地清掃に参加した支部会員と
伊丹理事長（前列左から3人目）

慰霊祭開催支援

第60回を迎えた全日本
空挺同志会高野山慰霊祭
には、地元の近畿連合支
部として、事前の墓地清
掃（8月8日）及び資材
整備、不動院様、空挺同
志会本部との調整にあた
るとともに、行事当日に
おける山内氏ほか5名に
よる「空の碑」前の所作、
安積氏の吟詠そして三宅
高野山委員長による高野
山慰霊祭の由来紹介等行
事の充実に努めました。

また、9月19日には雨
に濡れた提灯などの整備
を支部長ほか有志で行い
ました。お世話になりま
した関係者の皆様に御礼
申し上げます。